

福井県におけるトンボ類の生息地の現状

和田 茂樹¹

はじめに

福井県で記録されているトンボ類は、福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 (1985, 1998) にまとめられている。この内、保全対策上重要な種については、福井県自然環境保全調査研究会編 (1999) によって「自然特性」として選定され、保護の現状と留意点についても記載されている。本稿ではこれらの文献に挙げられたトンボ類の生息地のうち、現在開発の危機に瀕している水域、および将来開発される可能性の高い水域の現状について、今後の自然保護の一助となることを期待しまとめた。また、開発により既に消失した生息地についても報告する。必要に応じて筆者の採集記録も補足した。

以下、福井県自然環境保全調査研究会編 (1999) に「自然特性」として選定されたトンボ類を、「自然特性種」と称することにする。

開発により消失した自然特性種の生息地

1. 金津町指の廃棄水田

丘陵地の廃棄水田にハッチョウトンボが多産していたが、1978年の土地改良事業の埋め立てにより消失した (環境庁編 1979)。

2. 福井市菅生町の廃棄水田

山間のカンガレイなどの繁茂する廃棄水田にネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、ハッチョウトンボなどが生息し (和田・長田 1995, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998)、特にマルタンヤンマの生息個体数は多かったが、1997年に埋め立てにより消失した。

3. 福井市上一光町の廃棄水田

上一光町集落付近の廃棄水田にハッチョウトンボが生息していたが (下野谷 1988)、1990年代に埋め立てにより消失した。

4. 清水町本折の廃棄水田

丘陵地の廃棄水田にハッチョウトンボが多産していたが、1988年にゴルフ場造成に伴う周辺林の伐採、排水管による水抜きなどにより生息環境が著しく悪化し (下野谷 1988)、現在は生息していないものと思われる。

5. 敦賀市長谷の溜池 (Figs.3~4)

長谷集落の東方に位置する溜池には、かつてジュンサイ、ヒツジグサ、ガマ、ヨシなどの水生植物が豊富で、ハンノキの湿地林も伴っており、アオヤンマなどが記録されていたが (福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998)、2000年に溜池の大規模な改修が始まり、周辺林の伐採と水生植物の消失によりトンボ類の存続は望めなくなった。

6. 美浜町佐柿の溜池 (Figs.5~6)

佐柿北部に位置する溜池には、かつてコウホネなどの水生植物が繁茂し、チョウトンボなど平地の溜池に生息するトンボ類が極めて豊富であった (福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998)。しかし、1998年に大規模に改修され、2000年の5月と9月の調査では、かつては極めて多数観察されたアジアイトトンボ、クロイトトンボなどの普通種さえも全く見られなかった。

7. 小浜市岡津の溜池

岡津南部の溜池はフタスジサナエの県内唯一の現存既知産地であったが (和田ほか 1994, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998, 福井県自然環境保全調査研究会編 1999)、近年溜池の周辺林が大規模に伐採され、1999年夏には水が殆ど干上がり、更に2000年には堤の改修も行われるなど生息環境が極めて悪化した。1999年の調査では本種を確認することができず、絶滅した可能性が高い。

8. 高浜町鎌倉の溜池

鎌倉の集落北部の溜池にはガマ、カンガレイなどの水生植物が豊富で、ホソミイトトンボが生息する

1. 〒918-8004 福井市西木田3-8-18

など湿地、溜池のトンボ類が極めて豊富であったが(福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998), 1999年に周辺林も含めた大規模な改修が行われ、トンボ類の存続は望めなくなった。

自然特性種の生息地の現状

1. 北潟湖

【生息状況】

アオモンイトトンボ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、チョウトンボ、マイコアカネなどが生息している(福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1985, 和田ほか 1990b, 和田ほか 1992, 和田ほか 1993, 和田ほか 1994, 和田・長田 1995, 和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998)。このうちマイコアカネの県内で例年安定的に確認できる現存生息地は、北潟湖周辺と三方町中山が知られているに過ぎず、アオヤンマも北潟湖周辺が貴重な現存産地となっている。チョウトンボは南部の赤尾、北潟で個体数は非常に多く、県内最大の産地である。マダラヤンマは近年、北潟湖南部でしか記録がなく(和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会編 1999), 1987年と1990年に成虫が記録されている福井市西下野町の沼(清水 1988, 清水 1990a)が1997年以降、水位の著しい低下と埋め立てにより環境が急激に悪化しているため、北潟湖が唯一の生息地である可能性がある。北潟湖では上記のほかにも、セスジイトトンボなどのイトトンボ類、ウチワヤンマ、コフキトンボなどの個体数が他地域に比べて非常に多く(福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1985, 和田ほか 1993, 和田ほか 1994, 和田・長田 1995, 和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998), 県内に類を見ないトンボ産地といえる。

【生息地の現状】

北潟湖では北潟と赤尾の挺水、浮葉植物群落周辺がトンボ類の重要な生息環境となっているが、赤尾～北潟の湖畔にサイクリングロードが敷設されたために湖に隣接する草原が大幅に失われ、これらの場所を主な摂食場所とするイトトンボ類、アオヤンマ、マイコアカネなどの個体数の減少が懸念される。また、赤尾の一部では湖のガマ群落の際までサイクリングロードの基部が迫っている。

2. 福井市西畑町の土砂採掘跡の池

【生息状況】

ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、マルタンヤンマ、チョウトンボなどが生息している。ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボは非常に個体数が多く、県内最大の産地である。チョウトンボも個体数は多い。上記の他にもギンヤンマ、ショウジョウトンボなど平地の溜池に生息するトンボが非常に豊富である。

【記録】

ムスジイトトンボ: 7 6, 6- -1998; 1 1, 17- -1998; 3 1, 13- -1998. アオモンイトトンボ: 2 2, 6- -1998; 1 1, 17- -1998; 1 1, 4- -1998. マルタンヤンマ: 1, 5- -1998; 1, 1- -1998. チョウトンボ: 1, 17- -1998; 1, 25- -1998.

【生息地の現状】

元来土砂採掘に伴って生じた池であるが、現在は土砂捨て場となっており、周囲の草原や池が徐々に埋め立てられている。希少種の存続のため、池に土砂を廃棄しないことが望まれる。

3. 福井市末町の廃棄水田

【生息状況】

マルタンヤンマ、エゾトンボ、ハッチョウトンボなどが生息している(和田ほか 1989, 和田ほか 1990a, 和田ほか 1991, 和田ほか 1992, 和田ほか 1993, 和田・長田 1995, 和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998)。ハッチョウトンボの個体数は非常に多く、地区内に数ヶ所の生息地が知られている(下野谷 1988)。

【生息地の現状】

ハッチョウトンボの多産地の一つとして知られていた末町集落東方の廃棄水田が1998年～1999年に埋め立てられ水田化したが、現在は隣接する他の廃棄水田に生息圏を移し、個体数は依然として多い。末町の廃棄水田は常に水の供給が絶えないため、県内では数少ないハッチョウトンボの多産地域となっているが、同地では過去にも生息地の水田化により絶滅した例が知られている(下野谷 1988)。地元住民に生息地の存在を知らせ、保全への理解を得ることが重要である。

4. 和泉村伊月の廃棄水田

【生息状況】

エゾトンボ、ヒメアカネなどが生息している。ヒメアカネの個体数は多い。エゾトンボは県内では確実な生息地は少ない（福井県自然環境保全調査研究会編 1999）。

【記録】

エゾトンボ：1，30- -1999；1・羽化殻1ex.，12- -2000。ヒメアカネ：5 3・羽化殻1ex.，30- -1999。

【生息地の現状】

2000年に廃棄水田近くの小流の護岸工事が行われ、周辺の草地や湿地の一部が埋め立てられるなど、開発の予兆が見られる。

5. 敦賀市椋曲の中池見湿地

【生息状況】

アオモンイトトンボ、キイロサナエ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、エゾトンボ、ハッチョウトンボ、ヒメアカネなどの生息が確認されていたが（和田ほか 1992，和田ほか 1993，和田ほか 1994，和田 1995，和田・長田 1995，和田 1997，福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998，和田 2000a），キイロサナエ，ネアカヨシヤンマ，アオヤンマは1998年以降記録されていない（和田 2000b）。

【生息地の現状】

湿地化した廃棄水田や水路などがモザイク状に広がった極めて良好な環境であったが、LNG備蓄基地建設計画に伴う諸事業等により湿地の一部が埋め立てられたり、水田耕作が放棄されるなど環境の変化が見られる。また、近年はあらゆる水域でアメリカザリガニが爆発的に増加し、水生生物相の単調化が進んでいる。しかし、同地のトンボ相は確認種数が66種に上るなど多様性に富み（和田 2000b），ネアカヨシヤンマなどの希少種も多数生息していたことから、湿地の復元やアメリカザリガニの駆除などによる水環境の回復が望まれる。

6. 三方町中山の湿地

【生息状況】

ネアカヨシヤンマ，マルタンヤンマ，ハッチョウトンボ，マイコアカネ，ヒメアカネなどが生息しており（清水 1990b，和田ほか 1992，和田ほか 1993，

和田ほか 1994，和田 1997，福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998），アオヤンマも記録されている。マイコアカネは県内で例年安定的に確認できる現存生息地は、北潟湖周辺と三方町中山が知られているに過ぎない（福井県自然環境保全調査研究会編 1999）。

【記録】

アオヤンマ：1 目撃・羽化殻3exs.，3- -1998。

【生息地の現状】

現在湿地の林縁側（西側）に道路が造成されており、湿地の一部が埋め立てられた。同地のトンボ相の保全には、周辺の山林と水深の浅い湿地、深い湿地、湿地の東側に見られる池と水路を一帯として保全する必要があり、これ以上手を加えないことが望まれる。

7. 小浜市荒木の溜池と廃棄水田

【生息状況】

ホソミイトトンボ，マルタンヤンマ，エゾトンボ，ヒメアカネなどが生息している（清水 1990b，和田ほか 1993，和田ほか 1994，和田 1997，福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998）。ホソミイトトンボは県内の他の産地が埋め立てなどにより失われ、荒木の溜池は高浜町子生の溜池とともに、近年も生息が確認されている貴重な産地である。エゾトンボは県内では確実な生息地が少ないが（福井県自然環境保全調査研究会編 1999），荒木の溜池に隣接する廃棄水田では、比較的安定的に成虫が見られる。ヒメアカネは個体数が非常に多く、県内最大の産地となっている。上記の他にもモートンイトトンボ，キイトンボ，ハラビロトンボなど、湿地性のトンボが極めて豊富である（和田ほか 1993，和田ほか 1994，和田 1997，福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998）。

【生息地の現状】

溜池は近年は大きな変化は見られないが、廃棄水田には1998年～1999年に工事用重機が侵入した跡が見られるなど、開発の予兆を思わせる変化が見られる。溜池、廃棄水田と周囲の樹林にこれ以上手を加えないことが望まれる。

8. 名田庄村から小浜市の南川流域

【希少種の生息状況】

ゲンバイトンボ，アオハダトンボ，ムカシトンボ，

アオサナエ、ヒメサナエなどが生息している（清水 1988, 和田ほか 1991, 和田ほか 1992, 和田ほか 1993, 和田ほか 1994, 和田ほか 1995, 和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998）. グンバイトンボ, アオサナエ, ヒメサナエは県内では産地が限られているが, 南川流域では個体数が非常に多い（福井県自然環境保全調査研究会編 1999）. アオハダトンボも流域に広く生息するが, 近年一部の地域で著しい減少が見られる（福井県自然環境保全調査研究会編 1999）.

【生息地の現状】

名田庄村佐野周辺の南川では1995年ごろからアオハダトンボが著しく減少したが, これは同地でツルヨシが過剰に繁茂し始めた時期と一致しており, 適度な除草など何らかの対策が必要であろう(Fig.1). また, 南川の本流, 支流では近年河川改修が行われているが, 例えばグンバイトンボの生息には流畔の草原を維持することが不可欠で, アオサナエやヒメサナエの生息には河床の汚染が致命的な悪影響を与えることから, 周囲の草原も含めた河川環境をできるだけ現状のまま保全することが望ましい.

9. 高浜町子生の溜池

【生息状況】

ホソミイトトンボが生息している（和田ほか 1994, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998）. 子生の溜池は, 小浜市荒木の溜池とともに近年も本種の生息が確認されている貴重な産地である. また, 県内の低地では確実な生息地が限られているアオイトトンボも確認されている（和田ほか 1994, 和田 1997, 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編 1998）.

【生息地の現状】

1994年にホソミイトトンボの成虫 が確認された溜池の奥の草原が, 1998年～1999年に重機によって均されて消失するなど開発の予兆が見られ, 生息環境の悪化が懸念される(Fig.2).

キーワード：トンボ類, 自然特性種, 生息地の保全, 福井県

引用文献

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編. 1985. 福井県昆虫目録. 福井県.

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編. 1998. 福井県昆虫目録 (第2版). 福井県.
福井県自然環境保全調査研究会編. 1999. 福井県のすぐれた自然 動物編. 福井県.
環境庁編. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (昆虫類). 福井県.
清水典之. 1988. 福井県未記録のトンボ2種. *Insect 丹後・若狭*, (43): 4.
清水典之. 1990a. 福井県のマダラヤンマその後. *Aeschna*, (23): 6-7.
清水典之. 1990b. 嶺南地方 (福井県) を中心としたマルタンヤンマの記録. *Aeschna*, (23): 7-8.
下野谷豊一. 1988. 福井県嶺北地方からのハッチョウトンボの分布記録. *だんだら*, (2): 5-9.
和田茂樹・前田彰・岩佐康平・長田勝. 1989. 福井市内で採集したトンボ類. 福井市立郷土自然科学博物館研究報告, (36): 107-114.
和田茂樹・前田彰・岩佐康平・長田勝. 1990a. 福井市内で採集したトンボ類(2). 福井市立郷土自然科学博物館研究報告, (37): 33-39.
和田茂樹・前田彰・岩佐康平・長田勝. 1990b. 1990年に福井県嶺北地方で採集したトンボ類. 福井市立郷土自然科学博物館研究報告, (37): 41-45.
和田茂樹・前田彰・岩佐康平・長田勝. 1991. 1991年に福井県で採集したトンボ類. 福井市立郷土自然科学博物館研究報告, (38): 63-72.
和田茂樹・前田彰・岩佐康平・長田勝. 1992. 1992年に福井県で採集したトンボ類. 福井市自然史博物館研究報告, (39): 59-73.
和田茂樹・前田彰・長田勝. 1993. 1993年に福井県で採集したトンボ類. 福井市自然史博物館研究報告, (40): 71-82.
和田茂樹・前田彰・長田勝. 1994. 1994年に福井県で採集したトンボ類. 福井市自然史博物館研究報告, (41): 77-87.
和田茂樹. 1995. 中池見のトンボ - 1991年～1995年度調査報告 -. 福井市自然史博物館研究報告, (42): 67-79.
和田茂樹・長田勝. 1995. 1995年に福井県で採集したトンボ類. 福井市自然史博物館研究報告, (42): 81-88.
和田茂樹. 1997. 1997年に福井県で採集したトンボ類. 福井市自然史博物館研究報告, (44): 65-76.
和田茂樹. 2000a. 中池見湿地のトンボ相. 中池見

湿地（福井県敦賀市）学術調査報告書 - 第二次学術調査結果の報告 - （京都・神戸・福井3大学合同中池見湿地学術調査チーム，日本生物多様性防衛ネットワーク編）：18-50.

和田茂樹．2000b．福井県敦賀市樫曲・中池見湿地で2000年に新たに記録されたトンボ2種について．福井市自然史博物館研究報告，(47)：69-70.



Fig.1 名田庄村佐野の南川（1999年5月23日撮影）

1995年ごろまでは河川の右岸側（写真左側）にツルヨシの疎らな部分が見られ，流水性トンボ類が極めて豊富であったが，現在ではツルヨシの密集地が広がり，アオハダトンボなどが激減した．



Fig.2 高浜町子生の溜池（1999年5月23日撮影）

1994年にホソミイトンボの成虫が採集された池奥の草原が消失した．



Figs.3～4 敦賀市長谷の溜池（1999年4月30日，2000年8月28日撮影）
水生植物の繁茂する自然度の高い溜池であったが(Fig.3)，周辺林も含めて大規模な改修を受けている(Fig.4)。



Figs.5～6 美浜町佐柿の溜池（1998年7月28日，2000年5月27日撮影）
水生植物の繁茂する自然度の高い溜池であったが，大規模な改修が行われ(Fig.5)，現在ではかつての面影は全くない(Fig.6)。